



ロッキーマウンテン研究所



キャメロン・バーン

医療施設から有害物質追放の動き PVC含有容器の使用を自粛へ

米国で医療施設から水銀などの有害物質を追放する動きが進んでいる。その対象は、PVC(ポリ塩化ビニール)樹脂を使用した容器まで拡大。これに呼応して、大手メーカーも自社製品で使わないことを表明している。

英国の有名な小説「不思議の国のアリス」(1865年)で、著者は帽子職人をこの物語の主要人物として登場させている。帽子職人はどこか狂っていて、全く意味不明なことを話して、ひっきりなしに紅茶を飲んでいる。多くの歴史家が彼の奇行の原因を、水銀中毒と指摘している。

水銀は神経系を破壊する。その兆候として身震いや人格の変化、興奮状態、言語障害、視聴覚障害、歩行困難などの症状が発現し、死に至ることも多い。19世紀半ば、帽子の職人たちはフェルトの帽子を作る過程で余分な毛を取り除くために、高温の硝酸水銀溶液を使っていた。毛皮の縮充加工と呼ばれる。

米国ではさまざまな場面で水銀の使用を禁止している都市や州が多いが、一方で水銀はいまだに数多くの製品に使われている。つい10年ほど前までは、水銀をヘルスケア製品に使うこともごく一般的だった。

例えば、水銀温度計にはおよそ1gの水銀が使われている。米国環境保護局が2000年に発表した試算によれば、水銀体温計から一般固形廃棄物に混入する水銀だけでも毎年16.8tという量に達している。

しかも水銀は、病院でよく使われる非医療機器にも含まれている。洗浄装置や高輝度蛍光灯、非電子恒温器、スイッチ、圧力計などがその例である。

医療機器の製造・廃棄でダイオキシン

ヘルスケア・ウイザウト・ハームは「ヘルスケア産業を環境面で持続可能なものに、人々の健康や環境に害を与えないものに変換すること」が使命

米国の病院で目にするのは水銀だけではない。PVC(ポリ塩化ビニール)樹脂はさまざまな医療機器に使われており、この製造や焼却過程でダイオキシンが発生する。

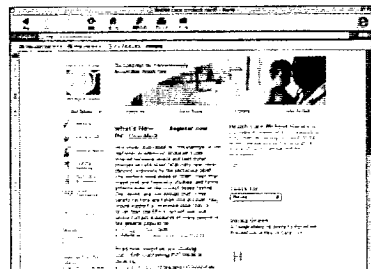
また、フタル酸塩はプラスチックを軟らかくするために添加されている。病院で使われている点滴用の半透明の軟らかい容器を思い出してほしい。

廃棄物が施設の内外を汚染 まずプラスチック容器から

「ヘルスケア施設の建物の設計や施設から出る廃棄物が原因で、施設の内部やその周辺、あるいはそこから離れたところでも人々が病気になっている。この皮肉な事実は、ヘルスケア現場での慣行を変えなければならないことを我々に訴えている」

サイエンス・アンド・エンバイロメンタルヘルスネットワークのサイエンスディレクターで、ボストンメディカルセンターの医師であるテッド・シェトラー氏は、こう述べる。

ヘルスケア施設から有害な物質を駆逐しようという動きは米国西海岸で始まり、その運動が勢いを増しつつある。ヘルスケア・ウイザウト・ハーム(HCWH)は、その中心的なグ



ループの一つだ。

HCWHは、ダイオキシン公害問題に取り組む組織として1996年に設立された。その後、活動をヘルスケアのあらゆる分野に広げ、「患者の安全や看護の面で妥協することなく、全世界のヘルスケア産業を環境面で持続可能なものに、そして人々の健康や環境に害を与えないものに変換すること」をその使命として掲げている。

その重点活動目標の一つとして、これまでプラスチック製点滴用容器に取り組んできた。既存の点滴用容器の中には、PVCやフタル酸塩を含有するものもある。最近になって、このHCWHの働きかけに応じて、バクスターインターナショナルなど大手メーカー数社が、自社製品からPVCを段階的に無くしていくと確約した。

このような動きはまだ小さいものではあるが確実に拡大を続けており、我々もこれを支援するべきだろう。病院に行って病気になることなど誰も望んでいないのだから。